



出演者	ゆうカルチャー	PUSH!	ぶらすトーク	ぐるりん瀬戸内
-----	---------	-------	--------	---------

PUSH!

→ その他の記事一覧はこちら

→ 旧「ウラドリ」一覧はこちら



検索のヒント

なし なし

検索

▶WEBNEWS

2009/04/06/ Monday 放送

動き始めた町の昆虫館

1年前に閉館した兵庫県佐用町の昆虫館が、一昨日、再オープンしました。復活の原動力になったのは、いずれも虫を愛する大人たち。今までにない昆虫館の誕生を、保坂キャスターが取材しました。

■廃止・・・一転復活

兵庫県と岡山県の県境に位置する、人口2万人の町・佐用町。



中心部から車で30分の所に、その昆虫館があった。

1971年、西日本初の「生きた昆虫を見せる施設」として誕生した兵庫県昆虫館。一年を通して虫や川魚およそ150種類が飼育され、それらに直接触れることもできた。



ABCケータイサイト
最新のニュースを📷付きでお届けしています。

旧「NEWSゆう」はこちら



地元の植物研究者・内海功一さんは、2年目から館長を務めていた。

【内海功一さん】

「ゼロからの出発というか、昆虫のことは子ども向けの本から勉強しました・・・。
虫の種類に応じた餌の補給や、虫は寿命が短いから、虫の補給が大変」



近年でも6000人ほど訪れていたが、設備は老朽化し、支えているのは高齢の館長ただ1人・・・。さらに、兵庫県が財政難から補助金を打ち切ったため、運営していた佐用町は閉館を決断した。

【兵庫県佐用町 庵途典章町長】

「佐用町みたいな小さな町では、人を確保することが難しい。一番大きいのはね・・・」
去年3月、兵庫県昆虫館は37年の歴史に幕を閉じた。

一方で、閉館を惜しむ声が昆虫学者から上がった。

【神戸大学昆虫化学研究室 竹田真木生教授】

「行政的には仕方がなかったかもしれないが、心情としては残したい。『何とかしよう』と思った」

この竹田先生の教授をきっかけに、昆虫館は復活へ動き始めた。

【兵庫県立人と自然の博物館 八木剛主任研究員】

「『皆でNPOを作ってお金も自分らで集めるという運営方法もありますけど、相当覚悟は要りますよ、先生』と言うと、（竹田先生が）『やろうじゃないか!』と・・・」

昆虫学者やアマチュアの研究者・学生など、賛同者はおよそ60人になった。

町や地元を説得し、ついに再オープンが決定。メンバーたちは仕事の合間に集まり、オープンに向けて準備を始めた。



運営費は以前のおよそ半分。1年を通じて開いていた施設は、4～10月の土・日・祝日に限定して開館することに決めた。



【兵庫県立人と自然の博物館 八木剛主任研究員】

「温室は植物がいっぱいすごかったですよ、でももったいないけど温室は撤去します・・・」

維持にお金がかかる温室は、断腸の思いで撤去となった。

元館長が手塩にかけて栽培した植物は、教え子らに受け継がれた。

保坂「自然の中にひっそりとたたずむ小さな建物ですね」

オープンを間近に控え、NPOのメンバーたちは準備作業に追われていた。



保坂「子どもたちが書いた絵を」

八木「このへんにどんどん貼っていこうと・・・」

保坂「現在進行形で昆虫館が出来上がっていくという・・・」



あの温室があった場所には、広場ができていた。
八木「子どもたちがお弁当を食べる所で、『おにぎりパクパク広場』と・・・」



オープン当初の『県立』から『町立』に変わったため、県が保有する貴重なコレクションはなくなった。しかし、代わりにメンバー各自が自慢のコレクションを持ち寄り、展示していく。

【メンバー（ハチ担当） 矢代学さん】

「色々な人に見ていただくのは、ワクワクします。仲間内の会だけでなく、特に子どもたちに知識を教えたい・・・」



専門家たちの話は、子どもだけでなく大人も惹きこまれる。

【メンバー（ハチ担当） 内藤親彦神戸大学名誉教授】

「（ハチのお尻にある）産卵管は、毒針ではなくてノコギリです。産卵管があるハチは、元々のハチの形。産卵管がのちに毒針に発達しました」



【メンバー（カミキリムシ担当） 三木進さん】

「メスの場合はオスが上に乗って交尾するので、斑点がかすれています。経験が豊富なのは、斑点が少ない・・・」

八木「楽しいでしょう！ひとつひとつこだわりがありますから」

保坂「目がキラキラ輝いていますし、虫のことを話し始めたらホントに止まらない。子どもっぽさが残ってらっしゃいますよね」

八木「自分がやってきて面白かったから、子どもたちに伝えたい。昆虫館が虫好きの総本山みたいになれば・・・」

【兵庫県佐用町 庵途典章町長】

「色々な昆虫を研究している人が何十人も集まり、運営していく地域にとって宝。特に子どもがそういう人たちに教わるのは、貴重な体験です。こんな施設日本で他にはないのでは・・・？」

地元の住民が、内覧会に訪れた。「生まれ変わった昆虫館が地域活性化の原動力になるのでは？」と、期待する声も多い。



【内覧会に訪れた人は・・・】

「過疎地で人が増えるのは嬉しいが、マナー違反者が増えるのは困ります」

「地元として、昆虫館と一緒に街づくりが繋がっていければ・・・」



そして迎えた、再オープン当日。

雨にも関わらず、多くの子どもたちが昆虫館を訪れた。普段見慣れない虫に子どもたちは興味津々で、説明するNPOのメンバーにも熱が入る。

【訪れた子どもたちは・・・】

「他の昆虫館もよく行きます」

「(高速代が1000円になったので) だいぶ安く来れました」

「夏に虫取りがあるみたいで、来させてもらいます」

これからは、メンバーたちが交代で館長を務め、様々なイベントを開催していく予定だ。

【兵庫県立人と自然の博物館 八木剛主任研究員】

「皆さん個性を発揮するので、日替わりで館のイメージが変わって面白いと思います・・・。これからです。やっと、スタートです」



↑ このページのTOP